

天
気
昭
和
四
十
一
年
七
月
十
五
日
刊
行
制
第
一
十
三
卷
第
七
号
発
行
者
大
田
正
次
発
行
所
一
井
七
郎
気
象
学
会
日
本
気
象
学
会
印
刷
所
三
井
物
産
印
刷
所
式
株
式
水
井
佐
波
大
蔵

気象学会関係の会議のお知らせ

10月までの間に、国内で開催される主要な会議の日程は次のとおりです。

8月19日(金)	気象学会月例会(気象学史と気象教育)	(気象庁内)
8月22日(月)~9月2日(土)	太平洋学術会議	(東京大学)
8月24日(水)	R.J. Reed 教授特別講演会	(気象庁内)
9月9日(金)	気象学会夏季講演会	(気象庁内)
9月16日(金)~17日(土)	大気と海洋における拡散に関する Tokyo meeting	(気象庁内)
9月19日(月)~24日(土)	境界層と乱流の国際シンポジウム	(京都館)
10月1日(土)~3日(月)	気象学会秋季大会	(北海道大学)
10月26日(水)	気象学会月例会(気象災害)	(気象庁内)

気象学会夏季講演会について

1. 期 日 : 9月9日 9時30分より

2. 会 場 : 気象庁第1会議室(東京都千代田区大手町 気象庁5階)

本文 255 頁に掲載したプログラム、講演要旨で明らかなように、非常に充実した内容の研究発表が多数行なわれますので、多数の参会者の活発な討論により有意義な会にしたいと思います。時間にゆとりが少ないので講演会の開始時刻を最初の予定より繰上げましたが、発表者も、事前に発表内容をよく整理して、討論に十分な時間をあてることができるようご配慮願います。なお研究発表終了後、懇親会(会費 300 円)を行なう予定です。ふるってご出席下さい。

特別講演会のお知らせ

太平洋学術会議のため来日された R.J. Reed 教授の気象現象の26ヶ月周期などの問題についての特別講演会を8月24日(水)午後気象庁第1会議室で開催します。多数会員の来場を望みます。(通訳、栗原宜夫博士の予定)

月例会について

前期の講演企画委員会では、月例会の運営を改善するとともに、併せて、大会への研究発表の集中を避けるため、数グループ合同のシンポジウムを企画するとともに大会の中間の時期に講演会を開催し、これを活用されるよう希望して参りました。幸にして、これらの企画は会員の支持を受け、順調に軌道に乗って来ましたので、今期の新講演企画委員会でもこれを踏襲し、積極的に推進して行く方針です。

しかし、グループによっては、その特殊な事情のため単独で月例会を開く必要がある場合もあり、また新たに結成された研究グループが気象学会の月例会として、シンポジウムや総合報告会を開催する必要に迫られる場合もあると思われれます。このような場合、随時、月例会が開催されることは差支えありませんが、天気誌上で研究発表の募集を要する場合は、3か月前の10日(10月30日に月例会を開催する場合は7月10日まで)に、主題、会期、会場、申込先を明記して、講演企画委員会に提出して下さい。その際の申込締切期日は月例会の2か月前の月末(上例では8月末日)になります。また研究発表を募集しない場合でも、月例会の前月10日までにプログラムの概要をまとめて、講演企画委員会へ提出して下さい。

以上、手続を怠った場合は、天気への告示はできません。

(講演企画委員会)

8月例会のおしらせ

主題 気象学史と気象教育

会期 昭和41年8月19日(金)10時より

会場 気象庁内気象大学校教室

講演題目

1. 奥田 穰(気研): 公害問題に対する高校・中学校教師の取りくみの1例

2. 白岡久雄(気象庁): 技術革新の歴史への私見

3. 根本順吉(気象庁): 二つの疑問—逃げ水と寺田寅彦の言葉について—

4. 根本順吉(気象庁): 明治初期の一気候資料

以上午前中、午後1時より

5. 安藤隆夫(東管): 観桜資料からの気候推定について

6. 木村耕三(気象庁): 気象学史上にも見られるエボククの形態

7. 渡辺次雄(理科大): 題未定

8. 久米庸孝(気象庁): 再び陰陽師について

—天気予報特に長期予報の起原について—

10月の月例会講演申込み

主題: 気象災害

会期: 10月26日(水)10時より 会場 気象庁内

申込先: 東京都杉並区高円寺北4丁目35—8

気象研究所台風研究部 奥田 穰

特別講演(1時間)

加茂儀一: 榎本武揚の北海道開拓使における活動